

和歌山信愛大学 令和5年度開講授業科目における自己点検・評価（後期・通年科目）

【1年生授業科目】

	年度	2023	2023
	期	通年	後期
Q 1 授業者	森崎陽子・宮定章	辻伸幸	
Q 1 授業名	ボランティア実習	英語コミュニケーションⅡ	
Q 2 授業の形態			
Q 2 1. 講義	0	0	
Q 2 2. 演習	0	1	
Q 2 3. 実験	0	0	
Q 2 4. 実習・実技	1	0	
Q 3 成績評価の方法			
Q 3 1. 期末試験	0	1	
Q 3 2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	1	
Q 3 3. レポート	1	0	
Q 3 4. その他 具体的に：			授業中の英語課題への解答、グループワークへの取り組み
Q 4 前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4 1. そう思う	1	0	
Q 4 2. やや思う	0	1	
Q 4 3. あまり思わない	0	0	
Q 4 4. そう思わない	0	0	
Q 4 5. 該当しない	0	0	
Q 5 意欲的に参加できるような工夫			
Q 5 1. そう思う	1	0	
Q 5 2. やや思う	0	1	
Q 5 3. あまり思わない	0	0	
Q 5 4. そう思わない	0	0	
Q 6 シラバス等の工夫			
Q 6 1. そう思う	1	0	
Q 6 2. やや思う	0	1	
Q 6 3. あまり思わない	0	0	
Q 6 4. そう思わない	0	0	
Q 7 授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7 1. そう思う	1	0	
Q 7 2. やや思う	0	1	
Q 7 3. あまり思わない	0	0	
Q 7 4. そう思わない	0	0	
Q 8 改善や工夫の具体的な事例			
Q 8 具体的事例	事前指導は、ボランティア活動の意義を伝える為に、依頼される方々から活動の狙いなどを対面で伝えて頂く授業内容を取り入れる。また事後指導においては個々の学生が実習から学んだことを共有し互いの学びを深められるよう工夫している。	将来、小学校の外国語教育や幼保の早期英語教育に結びつく教科書を用いて授業を行ったので、学生は、学習意識を高くして学ぶことができていた。また、英語を通して学びを広げるために、ハロウィンやクリスマスについて英語で学ぶ機会を設けた。	
Q 9 授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9 1. そう思う	1	0	
Q 9 2. やや思う	0	1	
Q 9 3. あまり思わない	0	0	
Q 9 4. そう思わない	0	0	
Q 10 改善点があれば 具体的			
Q 10 具体的事例	引き続き、ボランティア活動の意義に対する理解深めてもらう為に、外部講師による講話等を取り入れて行きたい。	さらに学生の英語を学び続けることができるような方略の紹介を行うことや、動画や歌を使った学びの充実も考えていく必要がある。	

		年度	2023	2023	2023
	期	後期	通年	通年	
Q 1	授業者	大山輝光	飯田まなみ・森崎陽子	森崎 陽子	
Q 1	授業名	情報処理演習Ⅰ	スポーツと健康Ⅱ（実技）	教職キャリアデザイン	
Q 2	授業の形態				
Q 2 1.	講義	0	0	1	
Q 2 2.	演習	1	0	0	
Q 2 3.	実験	0	0	0	
Q 2 4.	実習・実技	0	1	0	
Q 3	成績評価の方法				
Q 3 1.	期末試験	0	0	0	
Q 3 2.	平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	0	
Q 3 3.	レポート	0	0	1	
Q 3 4.	その他 具体的に：		競技技術、授業ノート		
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1.	そう思う	0	1	1	
Q 4 2.	やや思う	1	0	0	
Q 4 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 4 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 4 5.	該当しない	0	0	0	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1.	そう思う	1	1	1	
Q 5 2.	やや思う	0	0	0	
Q 5 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 5 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 6	シラバス等の工夫				
Q 6 1.	そう思う	1	1	1	
Q 6 2.	やや思う	0	0	0	
Q 6 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 6 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1.	そう思う	1	1	1	
Q 7 2.	やや思う	0	0	0	
Q 7 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 8	改善や工夫の具体的な事例				
Q 8	具体的な事例	学生の受講状況をリアルタイムに把握する授業支援システムを活用し、学生一人一人の状況に応じて課題設定を行った。また、配布する授業資料の作成に際しては、授業時は勿論、予習復習時にも活用できるよう配慮した。		2023年度は新たに担当教員として教員経験者が加わったことで、授業内容がより分かりやすく、興味深いものとなった。	
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1.	そう思う	0	0	1	
Q 9 2.	やや思う	1	1	0	
Q 9 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 9 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 10	改善点があれば 具体的	学生の興味・関心をさらに喚起するよう授業内容を改善したい。シラバスの記載内容や配布資料を精査・改善し、授業や予習復習で活用する機会を増やしたい。	天候による変更があることをシラバスを基に丁寧に質問をする。授業ノートが予習・復習に繋がっていることを伝えていく。	将来、教職、保育職の道だけではなく、広く社会を見据え将来の進む道としての選択肢が広がる授業内容を取り入れていく。	
Q 10	具体的な事例				

	年度 期	2023 通年	2023 通年	2023 通年
Q 1 授業者	森崎・村上・宮定・中村・前島・飯田	辻伸幸・小田真弓・前島美保	宮定章・千森督子	
Q 1 授業名	教職基礎ゼミナール	教職基礎実習	地域連携フィールド学習	
Q 2 授業の形態				
Q 2 1. 講義	0	0	1	
Q 2 2. 演習	1	0	1	
Q 2 3. 実験	0	0	0	
Q 2 4. 実習・実技	0	1	1	
Q 3 成績評価の方法				
Q 3 1. 期末試験	0	0	0	
Q 3 2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	0	1	
Q 3 3. レポート	1	1	1	
Q 3 4. その他 具体的に：	学修成果発表（プレゼンテーション）の評価も行っている。	大学の巡回指導教員の巡回指導報告書		
Q 4 前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1. そう思う	1	0	0	
Q 4 2. やや思う	0	1	1	
Q 4 3. あまり思わない	0	0	0	
Q 4 4. そう思わない	0	0	0	
Q 4 5. 該当しない	0	0	0	
Q 5 意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1. そう思う	1	0	0	
Q 5 2. やや思う	0	1	1	
Q 5 3. あまり思わない	0	0	0	
Q 5 4. そう思わない	0	0	0	
Q 6 シラバス等の工夫				
Q 6 1. そう思う	1	0	0	
Q 6 2. やや思う	0	1	1	
Q 6 3. あまり思わない	0	0	0	
Q 6 4. そう思わない	0	0	0	
Q 7 授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1. そう思う	1	0	0	
Q 7 2. やや思う	0	1	1	
Q 7 3. あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4. そう思わない	0	0	0	
Q 8 改善や工夫の具体的な事例				
Q 8 具体的事例	2023年度は、前年度から半数以上の担当教員が交代した。そのため本授業の「概要」「目標」は引き継ぎながらも、新入学生にとって大学での学びに必要な授業内容を吟味したうえで、各教員の専門分野を生かした授業内容に変更し実施した。具体的な事例としては、大学生としてのマイド面の向上を図る授業内容を加えた。	教職基礎実習を行う前に、教職キャリアデザインの授業と連携して、教職基礎実習の事前指導を行い、実習中何を観察したり、経験したり、留意したりするのかを学べるようにした。さらに事後指導も連携して行った。事後指導時は、協働的に学び、実習で学んだことを発表することができていた。		
Q 9 授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1. そう思う	1	0	0	
Q 9 2. やや思う	0	1	0	
Q 9 3. あまり思わない	0	0	1	
Q 9 4. そう思わない	0	0	0	
Q 10 改善点があれば 具体的				
Q 10 具体的事例	2023年度までは通年授業であったが2024年度は半期（前期）授業となる。新入学生にとって必要不可欠な授業内容を熟考し計画を行った。	引き続き、教職基礎実習が円滑に実施できるようにするために、和歌山市教育委員会、和歌山市信愛幼稚園等と強い信頼関係の構築が必要である。		

		年度	2023	2023
	期		後期	後期
Q 1	授業者		岸田正幸	岸田正幸
Q 1	授業名		教育制度論	教育方法論(ICTを含む)
Q 2	授業の形態			
Q 2	1. 講義		1	1
Q 2	2. 演習		0	0
Q 2	3. 実験		0	0
Q 2	4. 実習・実技		0	0
Q 3	成績評価の方法			
Q 3	1. 期末試験		1	1
Q 3	2. 平常点(小テスト・小レポート等)		1	1
Q 3	3. レポート		0	0
Q 3	4. その他 具体的に：			
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4	1. そう思う		0	0
Q 4	2. やや思う		0	0
Q 4	3. あまり思わない		1	1
Q 4	4. そう思わない		0	0
Q 4	5. 該当しない		0	0
Q 5	意欲的に参加できるような工夫			
Q 5	1. そう思う		1	1
Q 5	2. やや思う		0	0
Q 5	3. あまり思わない		0	0
Q 5	4. そう思わない		0	0
Q 6	シラバス等の工夫			
Q 6	1. そう思う		0	0
Q 6	2. やや思う		0	1
Q 6	3. あまり思わない		1	0
Q 6	4. そう思わない		0	0
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7	1. そう思う		1	1
Q 7	2. やや思う		0	0
Q 7	3. あまり思わない		0	0
Q 7	4. そう思わない		0	0
Q 8	改善や工夫の具体的な事例			
Q 8	具体的な事例			
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9	1. そう思う		0	0
Q 9	2. やや思う		0	0
Q 9	3. あまり思わない		1	1
Q 9	4. そう思わない		0	0
Q 10	改善点があれば 具体的			
Q 10	具体的な事例			

	年度 期	2023 後期	2023 後期	2023 後期
Q 1 授業者	原 康行	中村俊之	秋吉博之	
Q 1 授業名	保育の計画と評価	子どもと健康	子どもと環境	
Q 2 授業の形態				
Q 2 1. 講義	1	0	1	
Q 2 2. 演習	0	1	0	
Q 2 3. 実験	0	0	0	
Q 2 4. 実習・実技	0	0	0	
Q 3 成績評価の方法				
Q 3 1. 期末試験	1	1	0	
Q 3 2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	0	1	
Q 3 3. レポート	1	0	0	
Q 3 4. その他 具体的に：				
Q 4 前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1. そう思う	1	1	1	
Q 4 2. やや思う	0	0	0	
Q 4 3. あまり思わない	0	0	0	
Q 4 4. そう思わない	0	0	0	
Q 4 5. 該当しない	0	0	0	
Q 5 意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1. そう思う	1	1	1	
Q 5 2. やや思う	0	0	0	
Q 5 3. あまり思わない	0	0	0	
Q 5 4. そう思わない	0	0	0	
Q 6 シラバス等の工夫				
Q 6 1. そう思う	1	1	1	
Q 6 2. やや思う	0	0	0	
Q 6 3. あまり思わない	0	0	0	
Q 6 4. そう思わない	0	0	0	
Q 7 授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1. そう思う	1	1	1	
Q 7 2. やや思う	0	0	0	
Q 7 3. あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4. そう思わない	0	0	0	
Q 8 改善や工夫の具体的な事例				
Q 8 具体的事例	講義内容に関連する視覚教材の提供、ワークシート、授業内個別指導、授業内容に関する学生間でのフィードバックを実施した。 学生の理解度に合わせ、教材の工夫、講義順の変更（順番、内容変更是、事前に資料配布し、口頭で説明した）、補講指導を実施した。	毎時授業の最後に、ふりかえり（まとめ）の時間を設け総括した。	学生による協働的な活動を取り入れるようにした。	
Q 9 授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1. そう思う	1	0	1	
Q 9 2. やや思う	0	0	0	
Q 9 3. あまり思わない	0	1	0	
Q 9 4. そう思わない	0	0	0	
Q 10 改善点があれば 具体的				
Q 10 具体的事例	学生へのことばかけや、ふるまいに留意し、内容の主旨が伝わるように工夫を行う。		一方的にならないように、班活動などを取り入れ、学生の意見を踏まえながら授業を進めた。	

		年度	2023
		期	後期
Q 1	授業者	村上凡子	
Q 1	授業名	教育心理学	
Q 2	授業の形態		
Q 2	1. 講義	0	
Q 2	2. 演習	1	
Q 2	3. 実験	0	
Q 2	4. 実習・実技	0	
Q 3	成績評価の方法		
Q 3	1. 期末試験	1	
Q 3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	
Q 3	3. レポート	0	
Q 3	4. その他 具体的に：		
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1. そう思う	0	
Q 4	2. やや思う	0	
Q 4	3. あまり思わない	0	
Q 4	4. そう思わない	1	
Q 4	5. 該当しない	0	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1. そう思う	1	
Q 5	2. やや思う	0	
Q 5	3. あまり思わない	0	
Q 5	4. そう思わない	0	
Q 6	シラバス等の工夫		
Q 6	1. そう思う	1	
Q 6	2. やや思う	0	
Q 6	3. あまり思わない	0	
Q 6	4. そう思わない	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1. そう思う	1	
Q 7	2. やや思う	0	
Q 7	3. あまり思わない	0	
Q 7	4. そう思わない	0	
Q 8	改善や工夫の具体的事例		
Q 8	具体的な事例	自己評価の総平均が4.96と高かった。それを踏まえ、有効であったと捉えられる点の1つ目として、書き込み式のワークシートと読み物資料を組み合わせたプリントを配布した方法である。プリントをファイルに綴じて、いつでも以前に学修した回の内容にもアクセスできるようにした。2つ目としてプリントの参照可能条件下での2回の小テストの実施である。時間制限があるため、事前対策が必要である。回ごとにインデックスを貼り、キーワードを付箋に書いて貼ること、独自の目次の作成など学生は事前に対策を講じていた。3つ目として、当番制で前回の感想や復習問題の出題係を学生が担った点である。出番があることで、集中度や参加度が上がるという意見を日頃から聞いていた。2024年度はこれらの取り組みを継続するとともに、多様性に対応すべく、微修正を図りながら誰一人取り残さない授業展開に努めたい。	
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1. そう思う	0	
Q 9	2. やや思う	0	
Q 9	3. あまり思わない	1	
Q 9	4. そう思わない	0	
Q 10	改善点があれば 具体的		
Q 10	具体的な事例		

【2年生授業科目】

		年度	2023	2023
	期		通年	通年
Q 1	授業者	大山輝光	森崎陽子・千森督子	
Q 1	授業名	信愛教育II	インターンシップ(事前・事後指導を含む)	
Q 2	授業の形態			
Q 2	1. 講義	0	0	
Q 2	2. 演習	1	0	
Q 2	3. 実験	0	0	
Q 2	4. 実習・実技	0	1	
Q 3	成績評価の方法			
Q 3	1. 期末試験	0	0	
Q 3	2. 平常点(小テスト・小レポート等)	1	0	
Q 3	3. レポート	1	1	
Q 3	4. その他 具体的に:		外部評価70%含んでいます。	
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4	1. そう思う	0	1	
Q 4	2. やや思う	1	0	
Q 4	3. あまり思わない	0	0	
Q 4	4. そう思わない	0	0	
Q 4	5. 該当しない	0	0	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫			
Q 5	1. そう思う	0	1	
Q 5	2. やや思う	1	0	
Q 5	3. あまり思わない	0	0	
Q 5	4. そう思わない	0	0	
Q 6	シラバス等の工夫			
Q 6	1. そう思う	0	1	
Q 6	2. やや思う	1	0	
Q 6	3. あまり思わない	0	0	
Q 6	4. そう思わない	0	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7	1. そう思う	0	1	
Q 7	2. やや思う	1	0	
Q 7	3. あまり思わない	0	0	
Q 7	4. そう思わない	0	0	
Q 8	改善や工夫の具体的な事例			
Q 8	具体的な事例	本科目の予習復習は机上のものばかりではなく、日常生活の中で学んだことを応用したり考えたりすることも含むことを踏まえ、普段から意識的に自分で考え発見できるよう配慮した。	2023年度は、カリキュラムの変更により、2年生、3年生が共に受講する年度であった。そのため実習先の選定や申し込み等両学年が効率よく受講できるガイドス日程を計画した。また、個別相談の時間も多く設けた。	
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9	1. そう思う	1	1	
Q 9	2. やや思う	0	0	
Q 9	3. あまり思わない	0	0	
Q 9	4. そう思わない	0	0	
Q 10	改善点があれば、具体的			
Q 10	具体的な事例	学生の興味・関心をさらに喚起するよう授業内容を改善したい。学生に分かりやすい事例を取り上げたり、学生の生活に密着した例えをもって説明できるよう、現代の若者の思考や興味・関心を知る努力を継続する。また、学生との日常的対話の機会を大切にしたい。	2023年度は、開講後インターンシップの方法が変わったことが分かり、その対応に苦慮し、学生にも、学内で実習を受けて頂いている図書館にも大変迷惑をかけた。2024年度は、インターンシップに関する新情報を再確認し、受講生個々の対応策を立て臨みたい。	

	年度 期	2023 通年	2023 後期
Q 1 授業者	宮定・森崎・森下・小田・千森	山本紀代	
Q 1 授業名	地域連携フィールドゼミナール	算数	
Q 2 授業の形態			
Q 2 1. 講義	0	1	
Q 2 2. 演習	1	1	
Q 2 3. 実験	0	0	
Q 2 4. 実習・実技	0	0	
Q 3 成績評価の方法			
Q 3 1. 期末試験	0	1	
Q 3 2. 平常点(小テスト・小レポート等)	1	1	
Q 3 3. レポート	0	0	
Q 3 4. その他 具体的に：	研究発表会		
Q 4 前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4 1. そう思う	1	1	
Q 4 2. やや思う	0	0	
Q 4 3. あまり思わない	0	0	
Q 4 4. そう思わない	0	0	
Q 4 5. 該当しない	0	0	
Q 5 意欲的に参加できるような工夫			
Q 5 1. そう思う	1	1	
Q 5 2. やや思う	0	0	
Q 5 3. あまり思わない	0	0	
Q 5 4. そう思わない	0	0	
Q 6 シラバス等の工夫			
Q 6 1. そう思う	1	0	
Q 6 2. やや思う	0	0	
Q 6 3. あまり思わない	0	0	
Q 6 4. そう思わない	0	1	
Q 7 授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7 1. そう思う	1	1	
Q 7 2. やや思う	0	0	
Q 7 3. あまり思わない	0	0	
Q 7 4. そう思わない	0	0	
Q 8 改善や工夫の具体的な事例			
Q 8 具体的事例	地域の実情に合わせつつ、学生の主体性を高めようと工夫をしている。	苦手意識をもっている学生が多く、知識や内容の理解度に課題が多い。そのため、内容の質を落とすことなく指導者として必要な知識を得させるため、講義途中で繰り返し理解の程度をチェックした。また、必ず全員が発言する時間を設定した。講義の振り返りには、不明点や理解が不十分な内容などを書かせ、次の講義内容に反映させた。	
Q 9 授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9 1. そう思う	0	1	
Q 9 2. やや思う	0	0	
Q 9 3. あまり思わない	1	0	
Q 9 4. そう思わない	0	0	
Q 10 改善点があれば 具体的			
Q 10 具体的事例	今後も学生の意志意欲を尊重し地域との関わりを深めていきたい。	どうしても苦手意識を改善できない学生がいるため、数学の内容が日常生活に使われている例や、エピソードを加え、少しでも親しみがもてるよう意識して講義内容を見直した。	

		年度 期	2023 通年	2023 後期	2023 後期
Q 1	授業者	溝口希久生・八代健志	辻伸幸	中村俊之・山下悦子	
Q 1	授業名	器楽	初等英語	保育内容の指導法Ⅰ	
Q 2	授業の形態				
Q 2 1.	講義	0	0	0	
Q 2 2.	演習	1	1	1	
Q 2 3.	実験	0	0	0	
Q 2 4.	実習・実技	0	0	0	
Q 3	成績評価の方法				
Q 3 1.	期末試験	0	1	0	
Q 3 2.	平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1	
Q 3 3.	レポート	0	0	0	
Q 3 4.	その他 具体的に：	授業での実技評価や授業外での取り組み	授業での外国語における各活動における模擬実施におけるパフォーマンス	提出物・発表	
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1.	そう思う	0	0	1	
Q 4 2.	やや思う	0	1	0	
Q 4 3.	あまり思わない	1	0	0	
Q 4 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 4 5.	該当しない	0	0	0	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1.	そう思う	1	0	1	
Q 5 2.	やや思う	0	1	0	
Q 5 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 5 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 6	シラバス等の工夫				
Q 6 1.	そう思う	0	0	0	
Q 6 2.	やや思う	1	0	1	
Q 6 3.	あまり思わない	0	1	0	
Q 6 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1.	そう思う	1	1	1	
Q 7 2.	やや思う	0	0	0	
Q 7 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 8	改善や工夫の具体的事例				
Q 8	具体的事例	コード伴奏がどの学生にもできるよう、子どもの歌や共通教材を教材としてテキストの内容を系統的に配置して指導した。	学生たちが、小学校で実施されている外国語教育の教育の内容が実感できるようにするために、授業体験をできるようにしたり、実際の授業動画コンテンツを活用したりした。また、学生同士が意見や考えを交流できる機会をたくさん設けるようにした。		
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1.	そう思う	0	0	0	
Q 9 2.	やや思う	0	1	1	
Q 9 3.	あまり思わない	1	0	0	
Q 9 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 10	改善点があれば 具体的				
Q 10	具体的事例	さらなる学生による主体的、協働的な授業内容の演習が展開できるようになる。	グループを作って授業を進めるにあたって、クラスの普段離さない人と話が出来たと感じる学生の一方で、3年からの小幼や幼保コースにより開拓の方や考えに違いを認識した学生がいた。個人の取り組みに差がでないように工夫する。		

		年度	2023	2023
	期		後期	後期
Q 1	授業者		小林 康宏	溝口希久生
Q 1	授業名		初等教科教育法(国語)	初等教科教育法(音楽)
Q 2	授業の形態			
Q 2 1.	講義		1	0
Q 2 2.	演習		1	1
Q 2 3.	実験		0	0
Q 2 4.	実習・実技		0	0
Q 3	成績評価の方法			
Q 3 1.	期末試験		1	1
Q 3 2.	平常点(小テスト・小レポート等)		1	1
Q 3 3.	レポート		0	0
Q 3 4.	その他 具体的に:			模擬授業のパフォーマンスや教材研究
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4 1.	そう思う		1	0
Q 4 2.	やや思う		0	1
Q 4 3.	あまり思わない		0	0
Q 4 4.	そう思わない		0	0
Q 4 5.	該当しない		0	0
Q 5	意欲的に参加できるような工夫			
Q 5 1.	そう思う		1	1
Q 5 2.	やや思う		0	0
Q 5 3.	あまり思わない		0	0
Q 5 4.	そう思わない		0	0
Q 6	シラバス等の工夫			
Q 6 1.	そう思う		1	0
Q 6 2.	やや思う		0	1
Q 6 3.	あまり思わない		0	0
Q 6 4.	そう思わない		0	0
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7 1.	そう思う		1	1
Q 7 2.	やや思う		0	0
Q 7 3.	あまり思わない		0	0
Q 7 4.	そう思わない		0	0
Q 8	改善や工夫の具体的な事例			
Q 8	具体的な事例			
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9 1.	そう思う		0	0
Q 9 2.	やや思う		1	0
Q 9 3.	あまり思わない		0	1
Q 9 4.	そう思わない		0	0
Q 10	改善点があれば 具体的			
Q 10	具体的な事例			

		年度	2023
		期	後期
Q 1	授業者	大橋 功	
Q 1	授業名	初等教科教育法（図画工作）	
Q 2	授業の形態		
Q 2	1. 講義	0	
Q 2	2. 演習	1	
Q 2	3. 実験	0	
Q 2	4. 実習・実技	0	
Q 3	成績評価の方法		
Q 3	1. 期末試験	0	
Q 3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	
Q 3	3. レポート	0	
Q 3	4. その他 具体的に：	毎回提出する振り返りカードと演習で取り組んだ課題をファイルしたポートフォリオを提出し、それを評価対象としている。 また、チームによる教材研究～授業づくり～模擬授業における制作物、授業の相互評価なども評価資料としている。	
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1. そう思う	0	
Q 4	2. やや思う	0	
Q 4	3. あまり思わない	0	
Q 4	4. そう思わない	0	
Q 4	5. 該当しない	1	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1. そう思う	1	
Q 5	2. やや思う	0	
Q 5	3. あまり思わない	0	
Q 5	4. そう思わない	0	
Q 6	シラバス等の工夫		
Q 6	1. そう思う	0	
Q 6	2. やや思う	1	
Q 6	3. あまり思わない	0	
Q 6	4. そう思わない	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1. そう思う	1	
Q 7	2. やや思う	0	
Q 7	3. あまり思わない	0	
Q 7	4. そう思わない	0	
Q 8	改善や工夫の具体的な事例		
Q 8	具体的な事例	初任で取り組みました。前任校で取り組んできた授業を元に、学生の状況に応じて常に見直しながら授業をしています。 LMSとしてCラーニングを導入し、授業後の振り返り内容等から理解が不十分な点は次回に補うなど、反映できるところは反映しています。また、授業はじめに予習課題に対する確認をCラーニングのアンケート機能を用いて行っています。 授業の見直しを持たせるための授業全回の予定と準備物それに必要な事前の学習などを示したプリントを配布し、毎回の授業終わりに確認しています。	
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1. そう思う	0	
Q 9	2. やや思う	1	
Q 9	3. あまり思わない	0	
Q 9	4. そう思わない	0	
Q 10	改善点があれば 具体的		
Q 10	具体的な事例	Cラーニングで毎回、授業はじめにアンケート形式で前回指示した予習ができているか確認し、授業終わりには、学びの振り返りを行っているが、徹底できていない面がある。今年度は、より予習・復習に取り組めるように、授業構造を見直したい。	

	年度 期	2023 後期	2023 通年	2023 通年
Q 1 授業者	飯田まなみ・大平誠也	小田真弓・前島美保	小田真弓・前島美保	
Q 1 授業名	初等教科教育法（体育）	幼稚園実習Ⅰ	幼稚園実習指導Ⅰ	
Q 2 授業の形態				
Q 2 1. 講義	0	0	0	
Q 2 2. 演習	1	0	1	
Q 2 3. 実験	0	0	0	
Q 2 4. 実習・実技	0	1	0	
Q 3 成績評価の方法				
Q 3 1. 期末試験	1	0	0	
Q 3 2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	0	0	
Q 3 3. レポート	0	0	1	
Q 3 4. その他 具体的に：		外部評価		
Q 4 前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1. そう思う	0	0	1	
Q 4 2. やや思う	1	0	0	
Q 4 3. あまり思わない	0	0	0	
Q 4 4. そう思わない	0	0	0	
Q 4 5. 該当しない	0	1	0	
Q 5 意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1. そう思う	1	1	1	
Q 5 2. やや思う	0	0	0	
Q 5 3. あまり思わない	0	0	0	
Q 5 4. そう思わない	0	0	0	
Q 6 シラバス等の工夫				
Q 6 1. そう思う	0	0	1	
Q 6 2. やや思う	1	1	0	
Q 6 3. あまり思わない	0	0	0	
Q 6 4. そう思わない	0	0	0	
Q 7 授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1. そう思う	0	1	1	
Q 7 2. やや思う	1	0	0	
Q 7 3. あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4. そう思わない	0	0	0	
Q 8 改善や工夫の具体的事例				
Q 8 具体的事例	復習を兼ねて毎回の振り返りレポートを取り入れた。さらに学生同士の話し合いの機会を作った。	実習直前に授業を実施した。クラスの枠を外し、実習園ごとに実施し、実習初日に行う自己紹介や絵本の読み聞かせ、手遊びの交流を行った。ピアノ経験のない学生が多いため、計画的に練習することと実習時に使用できる楽譜を必要に応じて配布した。また、実習に対する不安等がないか、必要に応じて個別面談を行った。	実習日誌の書写を行うことからはじめ、「子どもの活動」、「保育者の援助・配慮」、映像を見て日誌作成と4段階に日誌を作成した。わらべ歌を実演したり、ゲームの遊び方を実演したり、歳児に応じた集団遊びの資料やわらべ歌、園で使用されているボードゲームを配布して紹介した。実習園ごとのグループワーク（視覚教材を準備した上で部分保育の交流や振り返り等）を取り入れた。	
Q 9 授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1. そう思う	0	0	0	
Q 9 2. やや思う	1	0	0	
Q 9 3. あまり思わない	0	1	1	
Q 9 4. そう思わない	0	0	0	
Q 10 改善点があれば 具体的				
Q 10 具体的事例	授業進度において、学生の書きぶりを確認し進めていく。さらに不明点があればその場で対応していくようにしたい。	これからも計画的に実習準備を進めていけるよう、個々の学生に応じた支援を行う。	実習に向けて、授業以外に各自で取り組まなければならないこと（ピアノの練習、手遊び、絵本などの教材研究）がたくさんあるため、いつまでにどれだけの教材研究を行っておかなければならぬかということを具体的に知らせた。今後も事前準備に力を入れていきたい。提出物について、実習指導のシラバスと授業時配布のレジメに期限を記入しているが、理解できていない学生のために、ポータルのメッセージ機能を併用して期限内に提出できるようにする。	

【3年生授業科目】

	年度	2023	2023	2023
	期	通年	通年	後期
Q 1	授業者	森崎陽子・千森督子	森崎 陽子	岸田正幸
Q 1	授業名	インターンシップ（事前・事後指導を含む）	キャリアガイダンスⅠ	教師への道Ⅱ
Q 2	授業の形態			
Q 2 1.	講義	0	1	0
Q 2 2.	演習	0	0	1
Q 2 3.	実験	0	0	0
Q 2 4.	実習・実技	1	0	0
Q 3	成績評価の方法			
Q 3 1.	期末試験	0	0	0
Q 3 2.	平常点（小テスト・小レポート等）	0	0	1
Q 3 3.	レポート	1	1	0
Q 3 4.	その他 具体的に：	外部評価70%含んでいる。		
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4 1.	そう思う	1	1	0
Q 4 2.	やや思う	0	0	0
Q 4 3.	あまり思わない	0	0	1
Q 4 4.	そう思わない	0	0	0
Q 4 5.	該当しない	0	0	0
Q 5	意欲的に参加できるような工夫			
Q 5 1.	そう思う	1	1	1
Q 5 2.	やや思う	0	0	0
Q 5 3.	あまり思わない	0	0	0
Q 5 4.	そう思わない	0	0	0
Q 6	シラバス等の工夫			
Q 6 1.	そう思う	1	1	0
Q 6 2.	やや思う	0	0	1
Q 6 3.	あまり思わない	0	0	0
Q 6 4.	そう思わない	0	0	0
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7 1.	そう思う	1	1	1
Q 7 2.	やや思う	0	0	0
Q 7 3.	あまり思わない	0	0	0
Q 7 4.	そう思わない	0	0	0
Q 8	改善や工夫の具体的事例			
Q 8	具体的事例	2023年度は、カリキュラムの変更により、2年生、3年生が共に受講する年度であった。そのため実習先の選定や申し込み等両学年が効率よく受講できるガイダンス日程を計画した。また、個別相談の時間も多く設けた。	作成した履歴書やエントリーシートは、添削した上で学生に返却し、教員は就職活動の際の面談時に利用し、学生は関係書類の作成時に活用することができた。	
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9 1.	そう思う	1	1	0
Q 9 2.	やや思う	0	0	0
Q 9 3.	あまり思わない	0	0	1
Q 9 4.	そう思わない	0	0	0
Q 10	改善点があれば 具体的			
Q 10	具体的事例	2023年度は、開講後インターンシップの方法が変わったことが分かり、その対応に苦慮し、学生にも、学内で実習を受けて頂いている図書館にも大変迷惑をかけた。2024年度は、インターンシップに関する新情報を再確認し、受講生個々の対応策を立て臨みたい。	授業内容は、実際の就職活動に繋がり生かしていくものに更に改善していく。	

	年度 期	2023 後期	2023 通年	2023 後期
Q 1 授業者		宮定章	溝口希久生	原 康行
Q 1 授業名		地域防災教育論	鍵盤楽器の表現技法	特別支援教育・保育II
Q 2 授業の形態				
Q 2 1. 講義		1	0	1
Q 2 2. 演習		1	1	0
Q 2 3. 実験		0	0	0
Q 2 4. 実習・実技		0	0	0
Q 3 成績評価の方法				
Q 3 1. 期末試験		0	0	1
Q 3 2. 平常点(小テスト・小レポート等)		1	0	1
Q 3 3. レポート		1	0	1
Q 3 4. その他 具体的に：			授業での鍵盤演奏の取り組み、実技技能の進捗状況を評価	
Q 4 前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1. そう思う		0	0	1
Q 4 2. やや思う		1	0	0
Q 4 3. あまり思わない		0	1	0
Q 4 4. そう思わない		0	0	0
Q 4 5. 該当しない		0	0	0
Q 5 意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1. そう思う		0	1	1
Q 5 2. やや思う		1	0	0
Q 5 3. あまり思わない		0	0	0
Q 5 4. そう思わない		0	0	0
Q 6 シラバス等の工夫				
Q 6 1. そう思う		0	0	1
Q 6 2. やや思う		1	0	0
Q 6 3. あまり思わない		0	1	0
Q 6 4. そう思わない		0	0	0
Q 7 授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1. そう思う		0	1	1
Q 7 2. やや思う		1	0	0
Q 7 3. あまり思わない		0	0	0
Q 7 4. そう思わない		0	0	0
Q 8 改善や工夫の具体的な事例				
Q 8 具体的事例		イメージしにくい事象を、かるたや、現物体験等で、教示した。	学生の実技技能にばらつきがあるが、少人数なので個に応じて教材を選択し指導した。	講義内容に関連する視覚教材の提供、ワークシート、グループワーク、実技演習、授業内容に関する学生間でのフィードバックを実施した。 学生の理解度に合わせ、教材の工夫、講義順の変更(順番、内容変更は、事前に資料配布し、口頭で説明した)、補講指導等を実施した。
Q 9 授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1. そう思う		0	0	1
Q 9 2. やや思う		0	0	0
Q 9 3. あまり思わない		0	1	0
Q 9 4. そう思わない		1	0	0
Q 10 改善点があれば 具体的				学生へのことばかけや、ふるまいに留意し、内容の主旨が伝わるように工夫を行う。
Q 10 具体的事例				

	年度 期	2023 後期	2023 通年	2023 通年	2023 通年	
Q 1 授業者	森下順子	小田真弓・前島美保	小田真弓・前島美保	辻伸幸・山本紀代		
Q 1 授業名	地域と子育て支援	幼稚園実習II	幼稚園実習指導II		小学校実習	
Q 2 授業の形態						
Q 2 1. 講義	1	0	0	0		
Q 2 2. 演習	0	0	1	0		
Q 2 3. 実験	0	0	0	0		
Q 2 4. 実習・実技	0	1	0	1		
Q 3 成績評価の方法						
Q 3 1. 期末試験	1	0	0	0		
Q 3 2. 平常点(小テスト・小レポート等)	1	0	0	0		
Q 3 3. レポート	0	0	1	1		
Q 3 4. その他 具体的に:		外部評価			教育実習配属校からの教育実習評価表と巡回指導教員報告書	
Q 4 前回の授業アンケート結果を受けての改善						
Q 4 1. そう思う	1	0	1	0		
Q 4 2. やや思う	0	0	0	1		
Q 4 3. あまり思わない	0	0	0	0		
Q 4 4. そう思わない	0	0	0	0		
Q 4 5. 該当しない	0	1	0	0		
Q 5 意欲的に参加できるような工夫						
Q 5 1. そう思う	1	1	1	0		
Q 5 2. やや思う	0	0	0	1		
Q 5 3. あまり思わない	0	0	0	0		
Q 5 4. そう思わない	0	0	0	0		
Q 6 シラバス等の工夫						
Q 6 1. そう思う	0	0	1	0		
Q 6 2. やや思う	1	1	0	1		
Q 6 3. あまり思わない	0	0	0	0		
Q 6 4. そう思わない	0	0	0	0		
Q 7 授業内容の理解を深めるような工夫						
Q 7 1. そう思う	1	1	1	0		
Q 7 2. やや思う	0	0	0	1		
Q 7 3. あまり思わない	0	0	0	0		
Q 7 4. そう思わない	0	0	0	0		
Q 8 改善や工夫の具体的事例						
Q 8 具体的事例		実習指導独自のシラバスを作成し、持ち物や提出物、提出日時を記載したものを作成した。3年時は実習となるため、計画的に準備ができるように4月末に準備しておく課題を知らせ、各自のベースで準備できるようにした。ピアノ経験のない学生が多いため、計画的に練習することと実習時に使用できる楽譜を必要に応じて配布した。	責任実習指導案の書写を行った後、部分実習指導案3種(製作・音楽リズム・集団遊び)の指導案を作成した。その後グループで模擬保育を行い、保育の改善案を具体的に知らせ、実習に臨めるようにした。		巡回指導教員同士の情報共有を行ない、効果的に学生の小学校教育実習が進められるようにした。 問題が発生した学生に対して、素早く大学教員が情報を収集できる体制を取っていたので、早期指導、対応をすることができた。	
Q 9 授業アンケート結果を受けての改善						
Q 9 1. そう思う	0	0	0	0		
Q 9 2. やや思う	1	1	1	1		
Q 9 3. あまり思わない	0	0	0	0		
Q 9 4. そう思わない	0	0	0	0		
Q 10 改善点があれば、具体的	授業外の学びに対する課題をより明確にする。	実習のための提出物や、提出課題を計画的に行えるように一覧表を作成し提示しているが、学生が理解していないため、授業資料にも再度記入している。しかし、理解していない学生がいるため、ポータルのメッセージ機能でも知らせていている。今後も続けていく必要がある。	実習に向けて、授業以外に各自で取り組まなければならないこと(ピアノの練習、手遊び・絵本などの教材研究、指導案作成)がたくさんあるため、いつまでにどれだけの教材研究を行っておかなければならぬかということを具体的に知らせ、実習までに余裕をもって準備できるように独自のシラバスで知らせていている。小幼コースは、施設実習後は小学校実習を重点に教材研究を行っているため、次年度は、4月中に指導案作成についての理解を深め、施設実習終了後1か月間に事前準備(指導案の作成)を終えるようする。	さらに、小学校教育実習の担当大学教員と和歌山市教育委員会、実習小学校と連携を強固にする。		
Q 10 具体的事例						

		年度 期	2023 通年	2023 通年	2023 通年
Q 1	授業者	辻伸幸・山本紀代	小田真弓・前島美保	小田真弓・前島美保	
Q 1	授業名	小学校実習指導	保育実習Ⅰ(保育所)	保育実習指導Ⅰ(保育所)	
Q 2	授業の形態				
Q 2 1.	講義	0	0	0	
Q 2 2.	演習	1	0	1	
Q 2 3.	実験	0	0	0	
Q 2 4.	実習・実技	0	1	0	
Q 3	成績評価の方法				
Q 3 1.	期末試験	0	0	0	
Q 3 2.	平常点(小テスト・小レポート等)	0	0	0	
Q 3 3.	レポート	1	0	1	
Q 3 4.	その他 具体的に :		外部評価		
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1.	そう思う	0	0	0	
Q 4 2.	やや思う	1	0	1	
Q 4 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 4 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 4 5.	該当しない	0	1	0	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1.	そう思う	0	1	0	
Q 5 2.	やや思う	1	0	1	
Q 5 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 5 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 6	シラバス等の工夫				
Q 6 1.	そう思う	0	0	0	
Q 6 2.	やや思う	1	1	1	
Q 6 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 6 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1.	そう思う	0	1	1	
Q 7 2.	やや思う	1	0	0	
Q 7 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 8	改善や工夫の具体的事例				
Q 8	具体的事例	教育実習を長年担当している現役の小学校教員や経験豊富な元小学校校長をゲストティーチャーとして迎え、学生のニーズに合った授業を開いた。	実習期間中の巡回指導において、指導の充実を図った	3歳児未満児と初めて関わる学生も多いため、DVD視聴を活用して、事前に実際の保育の様子を知らせ、実習に対する不安軽減に繋げた。個々の実習の振り返りに加え、部分実習の内容でわけたグループ発表をすることで、今後の教材研究に繋がるように工夫した。	
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1.	そう思う	0	0	0	
Q 9 2.	やや思う	1	0	1	
Q 9 3.	あまり思わない	0	1	1	
Q 9 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 10	改善点があれば 具体的	授業の学生の欠席や遅刻しないようにする意識の改善が必要である。	実習園との連携を通して、学生指導の充実を図る	シラバスとは別に授業進行表を作成し、必要に応じた予習・復習が行えるようにした。	
Q 10	具体的事例				

		年度 期	2023 通年	2023 通年	2023 後期
Q 1	授業者	森下順子・原康行	森下順子・原康行	小田真弓・前島美保	
Q 1	授業名	保育実習Ⅰ（施設）	保育指導実習Ⅰ（施設）	保育実習Ⅱ	
Q 2	授業の形態				
Q 2 1.	講義	0	0	0	
Q 2 2.	演習	0	0	0	
Q 2 3.	実験	0	0	0	
Q 2 4.	実習・実技	1	1	1	
Q 3	成績評価の方法				
Q 3 1.	期末試験	0	0	0	
Q 3 2.	平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	0	
Q 3 3.	レポート	0	1	0	
Q 3 4.	その他 具体的に：	本実習先の評価		外部評価	
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1.	そう思う	1	1	0	
Q 4 2.	やや思う	0	0	0	
Q 4 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 4 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 4 5.	該当しない	0	0	1	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1.	そう思う	1	1	1	
Q 5 2.	やや思う	0	0	0	
Q 5 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 5 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 6	シラバス等の工夫				
Q 6 1.	そう思う	1	1	0	
Q 6 2.	やや思う	0	0	1	
Q 6 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 6 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1.	そう思う	1	1	1	
Q 7 2.	やや思う	0	0	0	
Q 7 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 8	改善や工夫の具体的事例				
Q 8	具体的事例			保育実習Ⅰ（保育所）と幼稚園実習Ⅱを振り返り、最後の責任実習に向けて、指導案の再考を十分に行った上で実習に臨ませた。	
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1.	そう思う	0	0	0	
Q 9 2.	やや思う	0	0	1	
Q 9 3.	あまり思わない	1	1	0	
Q 9 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 10	改善点があれば 具体的			実習園との連携を通して、学生指導の充実を図る	
Q 10	具体的事例				

		年度 期	2023 後期	2023 通年	2023 通年
Q 1	授業者	小田真弓・前島美保	大橋・森下・八代・小田	秋吉・小林・辻・山本	
Q 1	授業名	保育実習指導Ⅱ	保育内容実践研究	教科実践研究	
Q 2	授業の形態				
Q 2 1.	講義	0	0	1	
Q 2 2.	演習	1	1	0	
Q 2 3.	実験	0	0	0	
Q 2 4.	実習・実技	0	0	0	
Q 3	成績評価の方法				
Q 3 1.	期末試験	0	0	0	
Q 3 2.	平常点（小テスト・小レポート等）	0	1	1	
Q 3 3.	レポート	1	1	0	
Q 3 4.	その他 具体的に：		オムニバスのためそれぞれの教員による評価を総合して成績評価を行っている。		
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1.	そう思う	0	0	1	
Q 4 2.	やや思う	1	0	0	
Q 4 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 4 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 4 5.	該当しない	0	1	0	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1.	そう思う	1	1	1	
Q 5 2.	やや思う	0	0	0	
Q 5 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 5 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 6	シラバス等の工夫				
Q 6 1.	そう思う	0	1	1	
Q 6 2.	やや思う	1	0	0	
Q 6 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 6 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1.	そう思う	1	1	1	
Q 7 2.	やや思う	0	0	0	
Q 7 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 8	改善や工夫の具体的事例				
Q 8	具体的事例	3年生幼保コースと4年生3免希望者の授業を童子に実施する機会をもつことで、互いに刺激し合い、より学びを深めることができていた。特に模擬保育では、保育実習指導Ⅰでの学びをさらに深めるため、グループではなく、一人ひとりが責任をもつて計画から実践、省察を行えるよう工夫した。	各担当者がそれぞれにより良い授業となるように工夫して取り組んでいると認識しています。演習科目であるので予習・復習を課してはいませんが、学生たちは、実習に向けて、模擬授業に向けた授業外学修を積み重ねています。シラバスについても可能な限り具体的に示すようにしている。	前期と後期では、内容を大きく変えて、学生の興味や関心を深めるように取り組んだ。	
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1.	そう思う	0	0	1	
Q 9 2.	やや思う	1	1	0	
Q 9 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 9 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 10	改善点があれば 具体的				
Q 10	具体的事例	シラバスとは別に授業進行表を作成し、必要に応じた予習・復習が行えるようにした。 模擬保育において、保育に参加した学生からも保育者と子どもの両視点における討議を行う機会をもち、保育の質の向上に努める	保育士になりたいとの展望をしっかりと持っている学生とそうでない学生との間で温度差があるようだが、保育士資格を持つ専門性としての実践力を身に付ける学修であることをさらに自覚できるように促していくたい。	ICTの活用に不得意な学生がおり、今後はさらにていねいな指導を行うこととした。	

		年度 期	2023 通年	2023 通年
Q 1	授業者	村上凡子		秋吉博之
Q 1	授業名	専門ゼミナールⅠ		専門ゼミナールⅠ
Q 2	授業の形態			
Q 2 1.	講義	0		1
Q 2 2.	演習	1		0
Q 2 3.	実験	0		0
Q 2 4.	実習・実技	0		0
Q 3	成績評価の方法			
Q 3 1.	期末試験	0		0
Q 3 2.	平常点(小テスト・小レポート等)	0		1
Q 3 3.	レポート	1		0
Q 3 4.	その他 具体的に:			
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4 1.	そう思う	0		1
Q 4 2.	やや思う	0		0
Q 4 3.	あまり思わない	0		0
Q 4 4.	そう思わない	1		0
Q 4 5.	該当しない	0		0
Q 5	意欲的に参加できるような工夫			
Q 5 1.	そう思う	1		1
Q 5 2.	やや思う	0		0
Q 5 3.	あまり思わない	0		0
Q 5 4.	そう思わない	0		0
Q 6	シラバス等の工夫			
Q 6 1.	そう思う	1		1
Q 6 2.	やや思う	0		0
Q 6 3.	あまり思わない	0		0
Q 6 4.	そう思わない	0		0
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7 1.	そう思う	1		1
Q 7 2.	やや思う	0		0
Q 7 3.	あまり思わない	0		0
Q 7 4.	そう思わない	0		0
Q 8	改善や工夫の具体的な事例			
Q 8	具体的な事例	学生同士間で、発言力の大きな偏りがあった。そのため前期当初は対等なコミュニケーションの成立に程遠い状況であった。人権啓発イベント企画会議にゼミ全体で参加していることから、コミュニケーションの活性化は必須の課題であり、発言力の差は改善点であると捉えた。全員に対して1人が発言する方式ではなく、1対1、2対2での共通の話題でのコミュニケーション、また4人グループ内で順に発言することなど多様な形態を採用した。その結果、発言力の偏りは完全とはいえないが、前期の段階と比較して、かなり肯定的な変化が生まれた。学生自身もゼミで自慢できる点として、チームワークをあげている。	進路選択を踏まえて、早め早めの指導を行った。	
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9 1.	そう思う	0		1
Q 9 2.	やや思う	0		0
Q 9 3.	あまり思わない	0		0
Q 9 4.	そう思わない	1		0
Q 10	改善点があれば 具体的			研究への理解を深めようとしている に指導を行うこととした。
Q 10	具体的な事例			

		年度 期	2023	2023	2023
Q 1	授業者	小林 康宏	岸田正幸	大橋 功	
Q 1	授業名	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅠ	
Q 2	授業の形態				
Q 2	1. 講義	1	0	0	
Q 2	2. 演習	1	1	1	
Q 2	3. 実験	0	0	0	
Q 2	4. 実習・実技	0	0	0	
Q 3	成績評価の方法				
Q 3	1. 期末試験	0	0	0	
Q 3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1	
Q 3	3. レポート	1	0	0	
Q 3	4. その他 具体的に：				ゼミナールは学生による主体的かつ創造的な研究活動である。その視点から総合的な評価を行っている。
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4	1. そう思う	1	0	0	
Q 4	2. やや思う	0	0	0	
Q 4	3. あまり思わない	0	1	0	
Q 4	4. そう思わない	0	0	0	
Q 4	5. 該当しない	0	0	1	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫				
Q 5	1. そう思う	1	1	1	
Q 5	2. やや思う	0	0	0	
Q 5	3. あまり思わない	0	0	0	
Q 5	4. そう思わない	0	0	0	
Q 6	シラバス等の工夫				
Q 6	1. そう思う	1	0	1	
Q 6	2. やや思う	0	1	0	
Q 6	3. あまり思わない	0	0	0	
Q 6	4. そう思わない	0	0	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7	1. そう思う	1	1	1	
Q 7	2. やや思う	0	0	0	
Q 7	3. あまり思わない	0	0	0	
Q 7	4. そう思わない	0	0	0	
Q 8	改善や工夫の具体的な事例				
Q 8	具体的な事例				美術教育、造形表現教育に関心のある学生であることを前提に、基礎文献の講読、研究方法の検討など基礎的事項からはじめ、フィールドワークを含めた幅広い美術教育研究の基礎について学ぶようにした。ゼミのLINEを用いた授業外学修の推進などにも工夫をした。
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9	1. そう思う	0	0	0	
Q 9	2. やや思う	1	0	1	
Q 9	3. あまり思わない	0	1	0	
Q 9	4. そう思わない	0	0	0	
Q 10	改善点があれば 具体的				
Q 10	具体的な事例				基本的に関心のある分野での積極的な学修態度で取り組めていたが、さらに専門ゼミナールⅡとの合同ゼミナールなど総割り研究体制も導入するなどしたい。

		年度 期	2023 通年	2023 通年	2023 通年
Q 1	授業者	溝口希久生	辻伸幸	八代健志	
Q 1	授業名	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅠ	
Q 2	授業の形態				
Q 2 1.	講義	0	0	0	
Q 2 2.	演習	1	1	1	
Q 2 3.	実験	0	0	0	
Q 2 4.	実習・実技	0	0	0	
Q 3	成績評価の方法				
Q 3 1.	期末試験	0	0	0	
Q 3 2.	平常点（小テスト・小レポート等）	0	0	1	
Q 3 3.	レポート	1	1	1	
Q 3 4.	その他 具体的に：	卒論テーマに関する自発的な探究活動を評価している。	先行論文の発表時の説明の内容		
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1.	そう思う	0	0	0	
Q 4 2.	やや思う	0	1	1	
Q 4 3.	あまり思わない	1	0	0	
Q 4 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 4 5.	該当しない	0	0	0	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1.	そう思う	1	0	0	
Q 5 2.	やや思う	0	1	1	
Q 5 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 5 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 6	シラバス等の工夫				
Q 6 1.	そう思う	0	0	0	
Q 6 2.	やや思う	0	0	1	
Q 6 3.	あまり思わない	1	1	0	
Q 6 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1.	そう思う	1	1	0	
Q 7 2.	やや思う	0	0	1	
Q 7 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 8	改善や工夫の具体的事例				
Q 8	具体的事例	学生個々に対応した先行研究を提示し、今後の見通しになる目次と一緒に考えた。	学生が主体的に先行論文を選択できるように配慮した。ただし、辻ゼミナールの研究範疇である、外国語教育、多文化共生、国際理解教育、国際交流活動から外れることのないよう指導した。 4年生の卒業論文発表会のリハーサルにも専門ゼミナールⅠの学生も参加させ、将来の学生自身の卒業論文を考えるための機会とした。		
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1.	そう思う	0	1	0	
Q 9 2.	やや思う	0	0	0	
Q 9 3.	あまり思わない	1	0	0	
Q 9 4.	そう思わない	0	0	1	
Q 10	改善点があれば 具体的				
Q 10	具体的事例		卒業論文の取り組み方や書き方を学ぶことができる参考図書の充実が欠かせない。		

	年度 期	2023 通年	2023 通年
Q 1 授業者	山本紀代	原 康行	
Q 1 授業名	専門ゼミナール I	専門ゼミナール I	
Q 2 授業の形態			
Q 2 1. 講義	1	1	
Q 2 2. 演習	1	0	
Q 2 3. 実験	0	0	
Q 2 4. 実習・実技	0	0	
Q 3 成績評価の方法			
Q 3 1. 期末試験	1	0	
Q 3 2. 平常点(小テスト・小レポート等)	1	1	
Q 3 3. レポート	0	1	
Q 3 4. その他 具体的に：			
Q 4 前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4 1. そう思う	1	1	
Q 4 2. やや思う	0	0	
Q 4 3. あまり思わない	0	0	
Q 4 4. そう思わない	0	0	
Q 4 5. 該当しない	0	0	
Q 5 意欲的に参加できるような工夫			
Q 5 1. そう思う	1	1	
Q 5 2. やや思う	0	0	
Q 5 3. あまり思わない	0	0	
Q 5 4. そう思わない	0	0	
Q 6 シラバス等の工夫			
Q 6 1. そう思う	0	1	
Q 6 2. やや思う	0	0	
Q 6 3. あまり思わない	0	0	
Q 6 4. そう思わない	1	0	
Q 7 授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7 1. そう思う	1	1	
Q 7 2. やや思う	0	0	
Q 7 3. あまり思わない	0	0	
Q 7 4. そう思わない	0	0	
Q 8 改善や工夫の具体的な事例			
Q 8 具体的事例	海外の情報を参考にできればと考え、読みやすい英語の文献を翻訳ソフトとともに提供した。	卒業研究を進めるにあたり、必要な資料、書籍を提供し、研究の基礎から、研究方法について指導した。学生の理解度に合わせ、教材の工夫、講義順の変更（順番、内容変更是、事前に資料配布し、口頭で説明した）、補講指導等を実施した。	
Q 9 授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9 1. そう思う	1	1	
Q 9 2. やや思う	0	0	
Q 9 3. あまり思わない	0	0	
Q 9 4. そう思わない	0	0	
Q 10 改善点があれば 具体的			
Q 10 具体的事例	研究の方法や面白さを体験させるため、研究実践の場での役割を経験したり、学会へ参加したりする機会を設けた。	学生へのことばかけや、ふるまいに留意し、内容の主旨が伝わるように工夫を行う。	

【4年生授業科目】

	年度	2023	2023
	期	通年	後期
Q 1 授業者	森崎 陽子	小林康宏・山本紀代・原康行	
Q 1 授業名	キャリアガイダンスⅡ	教職実践演習（幼・小）	
Q 2 授業の形態			
Q 2 1. 講義	1	1	
Q 2 2. 演習	0	1	
Q 2 3. 実験	0	0	
Q 2 4. 実習・実技	0	0	
Q 3 成績評価の方法			
Q 3 1. 期末試験	0	0	
Q 3 2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	1	
Q 3 3. レポート	1	0	
Q 3 4. その他 具体的に：			
Q 4 前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4 1. そう思う	1	1	
Q 4 2. やや思う	0	0	
Q 4 3. あまり思わない	0	0	
Q 4 4. そう思わない	0	0	
Q 4 5. 該当しない	0	0	
Q 5 意欲的に参加できるような工夫			
Q 5 1. そう思う	1	1	
Q 5 2. やや思う	0	0	
Q 5 3. あまり思わない	0	0	
Q 5 4. そう思わない	0	0	
Q 6 シラバス等の工夫			
Q 6 1. そう思う	1	1	
Q 6 2. やや思う	0	0	
Q 6 3. あまり思わない	0	0	
Q 6 4. そう思わない	0	0	
Q 7 授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7 1. そう思う	1	1	
Q 7 2. やや思う	0	0	
Q 7 3. あまり思わない	0	0	
Q 7 4. そう思わない	0	0	
Q 8 改善や工夫の具体的な事例			
Q 8 具体的事例	通年14回の前半は、学生個々の受験対策、後半は就職後の現場における社会人、職業人としての心構えや対応方法であった。特に後半の授業内容、マナーカ、コミュニケーション力、アンガーマネジメント力に関する授業内容と、現職の方々の御講話は学生から好評を得た。		
Q 9 授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9 1. そう思う	0	0	
Q 9 2. やや思う	0	1	
Q 9 3. あまり思わない	1	0	
Q 9 4. そう思わない	0	0	
Q 10 改善点があれば 具体的			
Q 10 具体的事例	昨年度の授業内容を引き続き行っていきたい。		

		年度 期	2023 後期	2023 通年	2023 通年
Q 1	授業者	森下順子・八代健志・小田真弓	村上凡子	秋吉博之	
Q 1	授業名	保育・教職実践演習（幼）	専門ゼミナールII	専門ゼミナールII	
Q 2	授業の形態				
Q 2 1.	講義	0	0	1	
Q 2 2.	演習	1	1	0	
Q 2 3.	実験	0	0	0	
Q 2 4.	実習・実技	0	0	0	
Q 3	成績評価の方法				
Q 3 1.	期末試験	0	0	0	
Q 3 2.	平常点（小テスト・小レポート等）	1	0	1	
Q 3 3.	レポート	1	1	0	
Q 3 4.	その他 具体的に：				
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1.	そう思う	0	0	1	
Q 4 2.	やや思う	1	0	0	
Q 4 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 4 4.	そう思わない	0	1	0	
Q 4 5.	該当しない	0	0	0	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1.	そう思う	0	1	1	
Q 5 2.	やや思う	1	0	0	
Q 5 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 5 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 6	シラバス等の工夫				
Q 6 1.	そう思う	0	1	1	
Q 6 2.	やや思う	1	0	0	
Q 6 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 6 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1.	そう思う	0	1	1	
Q 7 2.	やや思う	1	0	0	
Q 7 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 8	改善や工夫の具体的事例				
Q 8	具体的事例		各自が取り組んでいる卒業研究の運動し、心理学の研究方法の基礎的な理論を研究の主体としてどのように取り入れるかについて、取り上げた。有効であった。	進路と研究とが両立して取り組めるように、計画的に指導を行った。	
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1.	そう思う	0	0	1	
Q 9 2.	やや思う	1	0	0	
Q 9 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 9 4.	そう思わない	0	1	0	
Q 10	改善点があれば 具体的	3名の教員で構成されている授業であるため、教員ごとに分けてアンケートをとると、課題が明確になると思う。		計画的に指導を行えるように、個々の学生の状況をよく把握することとした。	
Q 10	具体的事例				

	年度 期	2023 通年	2023 通年
Q 1 授業者	小林 康宏	岸田正幸	
Q 1 授業名	専門ゼミナールII	専門ゼミナールII	
Q 2 授業の形態			
Q 2 1. 講義	1	0	
Q 2 2. 演習	1	1	
Q 2 3. 実験	0	0	
Q 2 4. 実習・実技	0	0	
Q 3 成績評価の方法			
Q 3 1. 期末試験	0	0	
Q 3 2. 平常点(小テスト・小レポート等)	1	1	
Q 3 3. レポート	1	0	
Q 3 4. その他 具体的に：			
Q 4 前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q 4 1. そう思う	1	0	
Q 4 2. やや思う	0	0	
Q 4 3. あまり思わない	0	1	
Q 4 4. そう思わない	0	0	
Q 4 5. 該当しない	0	0	
Q 5 意欲的に参加できるような工夫			
Q 5 1. そう思う	1	1	
Q 5 2. やや思う	0	0	
Q 5 3. あまり思わない	0	0	
Q 5 4. そう思わない	0	0	
Q 6 シラバス等の工夫			
Q 6 1. そう思う	1	0	
Q 6 2. やや思う	0	0	
Q 6 3. あまり思わない	0	1	
Q 6 4. そう思わない	0	0	
Q 7 授業内容の理解を深めるような工夫			
Q 7 1. そう思う	1	1	
Q 7 2. やや思う	0	0	
Q 7 3. あまり思わない	0	0	
Q 7 4. そう思わない	0	0	
Q 8 改善や工夫の具体的な事例			
Q 8 具体的事例			
Q 9 授業アンケート結果を受けての改善			
Q 9 1. そう思う	0	0	
Q 9 2. やや思う	1	0	
Q 9 3. あまり思わない	0	1	
Q 9 4. そう思わない	0	0	
Q 10 改善点があれば 具体的			
Q 10 具体的事例			

	年度 期	2023 通年	2023 通年
Q 1	授業者	大橋 功	溝口希久生
Q 1	授業名	専門ゼミナールII	専門ゼミナールII
Q 2	授業の形態		
Q 2	1. 講義	0	0
Q 2	2. 演習	1	1
Q 2	3. 実験	0	0
Q 2	4. 実習・実技	0	0
Q 3	成績評価の方法		
Q 3	1. 期末試験	0	0
Q 3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	0
Q 3	3. レポート	0	1
Q 3	4. その他 具体的に：	ゼミナールは学生による主体的かつ創造的な研究活動である。その視点から総合的な評価を行っている。	卒論テーマに関する自発的な探究活動を評価している。
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q 4	1. そう思う	0	0
Q 4	2. やや思う	0	0
Q 4	3. あまり思わない	0	1
Q 4	4. そう思わない	0	0
Q 4	5. 該当しない	1	0
Q 5	意欲的に参加できるような工夫		
Q 5	1. そう思う	1	1
Q 5	2. やや思う	0	0
Q 5	3. あまり思わない	0	0
Q 5	4. そう思わない	0	0
Q 6	シラバス等の工夫		
Q 6	1. そう思う	1	0
Q 6	2. やや思う	0	0
Q 6	3. あまり思わない	0	1
Q 6	4. そう思わない	0	0
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q 7	1. そう思う	1	1
Q 7	2. やや思う	0	0
Q 7	3. あまり思わない	0	0
Q 7	4. そう思わない	0	0
Q 8	改善や工夫の具体的な事例		
Q 8	具体的な事例	美術教育、造形表現教育に関心のある学生であれば、専門ゼミナールIで基礎的事項を学修済みであることを前提に、より専門性の高い美術教育関連の文献講読、リサーチのトレーニングなどに取り組んだ。さらに、美術館などで実地学修を含めた幅広い美術教育について学ぶようにした。ゼミのLINEを用いた授業外学修の推進などにも工夫をした。 ※後記は、卒業研究と連動させながら、相互の研究の進捗を報告し合い、また相互に検討し合うなどした。	できるだけ卒論内容に深まりが出てくるような先行研究を提示したり指導を加えたりした。
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q 9	1. そう思う	0	0
Q 9	2. やや思う	1	0
Q 9	3. あまり思わない	0	1
Q 9	4. そう思わない	0	0
Q 10	改善点があれば 具体的		
Q 10	具体的な事例	基本的に関心のある分野での積極的な学修態度で取り組めていたが、さらに専門ゼミナールIとの合同ゼミナールなど縦割り研究体制も導入するなどしたい。	

		年度 期	2023 通年	2023 通年	2023 通年
Q 1	授業者	辻伸幸	八代健志	山本紀代	
Q 1	授業名	専門ゼミナールII	専門ゼミナールII	専門ゼミナールII	
Q 2	授業の形態				
Q 2 1.	講義	0	0	1	
Q 2 2.	演習	1	1	1	
Q 2 3.	実験	0	0	0	
Q 2 4.	実習・実技	0	0	0	
Q 3	成績評価の方法				
Q 3 1.	期末試験	0	0	1	
Q 3 2.	平常点（小テスト・小レポート等）	0	1	1	
Q 3 3.	レポート	1	1	0	
Q 3 4.	その他 具体的に：	ゼミナールにおける根拠をもった説明や分かりやすいプレゼンテーション			
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1.	そう思う	0	0	1	
Q 4 2.	やや思う	1	1	0	
Q 4 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 4 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 4 5.	該当しない	0	0	0	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1.	そう思う	0	0	1	
Q 5 2.	やや思う	1	1	0	
Q 5 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 5 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 6	シラバス等の工夫				
Q 6 1.	そう思う	0	0	0	
Q 6 2.	やや思う	1	1	0	
Q 6 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 6 4.	そう思わない	0	0	1	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1.	そう思う	1	0	1	
Q 7 2.	やや思う	0	1	0	
Q 7 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 8	改善や工夫の具体的事例				
Q 8		学生各自の卒業論文に結び付くような先行論文の紹介を積極的に行なった。			より広い視野で研究を深められるよう、各学会のプログラムや資料を積極的に用いた。
Q 8	具体的事例				
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1.	そう思う	1	0	1	
Q 9 2.	やや思う	0	0	0	
Q 9 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 9 4.	そう思わない	0	1	0	
Q 10	改善点があれば 具体的				
Q 10		さらに、協働的に専門的な学びを深め合うことができるような取り組みが必要である。また、春季休業中から専門的な学びができるような機会を設けることも必要と考える。			個人のテーマについて内容の質が少しでも高まるよう、互いの研究内容について情報交換や質疑応答の機会を設けた。
Q 10	具体的事例				

		年度 期	2023 通年	2023 通年	2023 通年
Q 1	授業者	原 康行	村上凡子	秋吉博之	
Q 1	授業名	専門ゼミナール II	卒業研究	卒業研究	
Q 2	授業の形態				
Q 2 1.	講義	1	0	1	
Q 2 2.	演習	0	1	0	
Q 2 3.	実験	0	0	0	
Q 2 4.	実習・実技	0	0	0	
Q 3	成績評価の方法				
Q 3 1.	期末試験	0	0	0	
Q 3 2.	平常点（小テスト・小レポート等）	1	0	1	
Q 3 3.	レポート	1	1	0	
Q 3 4.	その他 具体的に：				
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1.	そう思う	1	0	1	
Q 4 2.	やや思う	0	0	0	
Q 4 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 4 4.	そう思わない	0	1	0	
Q 4 5.	該当しない	0	0	0	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1.	そう思う	1	1	1	
Q 5 2.	やや思う	0	0	0	
Q 5 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 5 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 6	シラバス等の工夫				
Q 6 1.	そう思う	1	1	1	
Q 6 2.	やや思う	0	0	0	
Q 6 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 6 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1.	そう思う	1	1	1	
Q 7 2.	やや思う	0	0	0	
Q 7 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 8	改善や工夫の具体的事例				
Q 8	具体的事例	卒業研究を進めるにあたり、必要な資料、書籍を提供し、研究の基礎から、研究方法について指導した。学生の理解度に合わせ、教材の工夫、講義順の変更（順番、内容変更是、事前に資料配布し、口頭で説明した）、補講指導等を実施した。	年度当初に学生自ら卒業研究年間計画の立案作成、その提出を求めた。個別指導助言の時間の終わりに、次の研究活動の内容を書き留めるよう指示し、教員と共に認識を図った。卒業論文の提出後、卒業研究発表会までのデータの作成等で個々の取り組みに差があり、最後まで手を抜かず指導する必要性を痛感した。	論文執筆への細やかな指導ができるよう、計画的に指導を行った。	
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1.	そう思う	1	0	1	
Q 9 2.	やや思う	0	0	0	
Q 9 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 9 4.	そう思わない	0	1	0	
Q 10	改善点があれば 具体的				
Q 10	具体的事例	学生へのことばかけや、ふるまいに留意し、内容の主旨が伝わるように工夫を行う。	学生によって研究への取り組みに個人差があり、個々の学生のようすを把握して論文の指導を細やかにすることとした。		
Q 10	具体的事例				

		年度 期	2023 通年	2023 通年	2023 通年
Q 1	授業者	小林 康宏		岸田正幸	大橋 功
Q 1	授業名	卒業研究		卒業研究	卒業研究
Q 2	授業の形態				
Q 2 1.	講義	1	0	0	
Q 2 2.	演習	1	1	1	
Q 2 3.	実験	0	0	0	
Q 2 4.	実習・実技	0	0	0	
Q 3	成績評価の方法				
Q 3 1.	期末試験	0	0	0	
Q 3 2.	平常点（小テスト・小レポート等）	1	0	1	
Q 3 3.	レポート	1	0	0	
Q 3 4.	その他 具体的に：		卒業論文	研究姿勢、研究目的、内容、方法の妥当性、創造性などを中心に、研究過程及び研究成果としての卒業論文の総合的評価を行った。	
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1.	そう思う	1	0	0	
Q 4 2.	やや思う	0	0	0	
Q 4 3.	あまり思わない	0	1	0	
Q 4 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 4 5.	該当しない	0	0	1	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1.	そう思う	1	1	1	
Q 5 2.	やや思う	0	0	0	
Q 5 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 5 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 6	シラバス等の工夫				
Q 6 1.	そう思う	1	0	1	
Q 6 2.	やや思う	0	0	0	
Q 6 3.	あまり思わない	0	1	0	
Q 6 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1.	そう思う	1	1	1	
Q 7 2.	やや思う	0	0	0	
Q 7 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 8	改善や工夫の具体的事例				
Q 8	具体的事例				全体での一斉指導では、論文の全体構造を構築することからはじめ、それぞれの課題についてどのようなアプローチで取り組むのかを共有しながら、段階を追いながら、足並みが揃うように工夫した。一斉指導は前期に限定して行ったが、後期は個々に指導を行った。また、ZoomやLineなどのICTを活用し、随時指導ができる体制を整えた。
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1.	そう思う	0	0	0	
Q 9 2.	やや思う	1	0	0	
Q 9 3.	あまり思わない	0	1	1	
Q 9 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 10	改善点があれば 具体的				
Q 10	具体的事例				

		年度 期	2023 通年	2023 通年	2023 通年
Q 1	授業者	溝口希久生	辻伸幸	八代健志	
Q 1	授業名	卒業研究	卒業研究	卒業研究	
Q 2	授業の形態				
Q 2 1.	講義	0	0	0	
Q 2 2.	演習	1	1	1	
Q 2 3.	実験	0	0	0	
Q 2 4.	実習・実技	0	0	0	
Q 3	成績評価の方法				
Q 3 1.	期末試験	0	0	0	
Q 3 2.	平常点（小テスト・小レポート等）	0	0	1	
Q 3 3.	レポート	1	1	1	
Q 3 4.	その他 具体的に：	卒論の自発的な記述内容や卒論の仕上がりを評価した。	完成版卒業論文、卒業論文草稿、卒業論文に結び付く先行研究		
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1.	そう思う	0	0	0	
Q 4 2.	やや思う	0	1	1	
Q 4 3.	あまり思わない	1	0	0	
Q 4 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 4 5.	該当しない	0	0	0	
Q 5	意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1.	そう思う	1	0	0	
Q 5 2.	やや思う	0	1	1	
Q 5 3.	あまり思わない	1	0	0	
Q 5 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 6	シラバス等の工夫				
Q 6 1.	そう思う	0	0	0	
Q 6 2.	やや思う	0	0	1	
Q 6 3.	あまり思わない	0	1	0	
Q 6 4.	そう思わない	1	0	0	
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1.	そう思う	1	0	1	
Q 7 2.	やや思う	0	1	0	
Q 7 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 7 4.	そう思わない	0	0	0	
Q 8	改善や工夫の具体的事例				
Q 8	具体的事例	学生個々の状況に応じた指導を心がけた。卒論が書き進めない学生は、十分時間をとって指導した。自発的に記述している学生はより高い課題を与えて質の高い論文を目指させた。	各学生に個別に対応できる時間を見るようにした。また、年間を通して随時、適時適切に相談や指導を行えるようにした。 多文化共生の分野では、和歌山県国際交流センターに協力を依頼し、学生がボランティアに主体的に参加し、卒業論文に結び付く調査を実施することができた。		
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1.	そう思う	0	0	0	
Q 9 2.	やや思う	0	1	0	
Q 9 3.	あまり思わない	0	0	0	
Q 9 4.	そう思わない	1	0	1	
Q 10	改善点があれば 具体的				
Q 10	具体的事例		引き続き、多文化共生の分野では和歌山県国際交流センターの協力が必要である。そのため、しっかりした信頼関係を築いていくことが必要である。		

		年度	2023	2023	集計
	期		通年	通年	
Q 1	授業者	山本紀代		原 康行	
Q 1	授業名	卒業研究		卒業研究	
Q 2	授業の形態				
Q 2 1.	講義	1	1		26
Q 2 2.	演習	1	0		51
Q 2 3.	実験	0	0		0
Q 2 4.	実習・実技	0	0		13
Q 3	成績評価の方法				
Q 3 1.	期末試験	1	0		15
Q 3 2.	平常点（小テスト・小レポート等）	1	1		48
Q 3 3.	レポート	0	1		40
Q 3 4.	その他 具体的に：		卒業論文		
Q 4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q 4 1.	そう思う	1	1		34
Q 4 2.	やや思う	0	0		20
Q 4 3.	あまり思わない	0	0		11
Q 4 4.	そう思わない	0	0		4
Q 4 5.	該当しない	0	0		9
Q 5	意欲的に参加できるような工夫				
Q 5 1.	そう思う	1	1		62
Q 5 2.	やや思う	0	0		16
Q 5 3.	あまり思わない	0	0		1
Q 5 4.	そう思わない	0	0		0
Q 6	シラバス等の工夫				
Q 6 1.	そう思う	0	1		38
Q 6 2.	やや思う	0	0		26
Q 6 3.	あまり思わない	0	0		9
Q 6 4.	そう思わない	1	0		5
Q 7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q 7 1.	そう思う	1	1		66
Q 7 2.	やや思う	0	0		12
Q 7 3.	あまり思わない	0	0		0
Q 7 4.	そう思わない	0	0		0
Q 8	改善や工夫の具体的な事例				
Q 8	具体的な事例	文部科学省からの最新の情報や各種学会の発表等、最先端の研究内容を知る機会を積極的に設けた。	卒業研究を進めるにあたり、必要な資料、書籍を提供し、研究の基礎から、研究方法について指導した。学生の理解度に合わせ、指導を進め、補講指導等を実施した。		
Q 9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q 9 1.	そう思う	1	1		23
Q 9 2.	やや思う	0	0		25
Q 9 3.	あまり思わない	0	0		23
Q 9 4.	そう思わない	0	0		8
Q 10	改善点があれば 具体的				
Q 10	具体的な事例	数学教育学会にスタッフとして参加し、参考文献の著者と直接話す機会を設けた。	学生へのことばかけや、ふるまいに留意し、内容の主旨が伝わるように工夫を行う。		